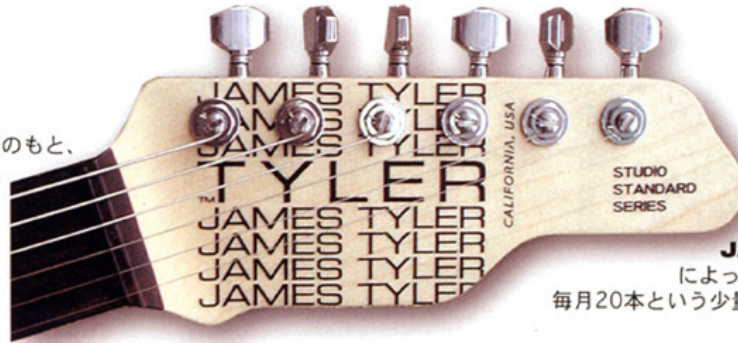


JAMES TYLER™

ジェイムス・タイラー™の新たな攻撃

JAMES TYLER氏のデザイン、監修のもと、世界中のビルダーチームの中から、氏が唯一信頼を寄せ選ばれた日本の製作陣とともに作り出されるスタジオスタンダード・シリーズの誕生です。最高峰モデルの1つ STUDIO ELITE HD のボディ・



ネックデザイン・コントロール系の基本仕様を踏襲し、ピックアップ・ミッドレンジブースターをこのシリーズのために新たに開発。JAMES TYLERを所有することによってのみ得られる「攻撃的な悦び」を毎月20本という少量生産であなただけにお届けします。



James Tyler氏
LAの工房にて



ビンテージスタイルながらロー
ノイズ化とパワーアップを実現。



GOTOH HAPMを搭載。チューニン
グの安定とテンションの調整を可能。

STUDIO STANDARD HD

SUPERVISED BY JAMES TYLER
MANUFACTURED IN JAPAN

SPECIFICATIONS:

ボディ材：アルダー2ピース
ネック材：メイプル
指板：メイプル又はローズウッド
ポジションマーク：アバロン
ナット：カーボングラファイト
フレットジャンボタイプ215、22F
チューニングペグ：ゴトー製HAPM
(ロッキングタイプ)
ピックアップ：新開発
ローノイズシングルコイル
スラントハムバッカー
ブリッジ：ウィルキンソンVG300
コントロール：5ウェイスイッチ、
マスターボリューム、
ミッドブースト
マスタートーン
ボディカラー：グロスブラック、
グロスホワイト
ピックガード：ホワイトパール
プライス：オープンプライス
オリジナルギグケース付属



USA+STUDIO STANDARD 取扱店
島村楽器福岡イムズ店 (092-733-2315)
島村楽器広島バルコ店 (082-542-2212)
島村楽器岡山LOTZ店 (086-226-8111)
島村楽器神戸三宮店 (078-327-3611)
大東楽器枚方店 (072-843-3000)
島村楽器名古屋バルコ店 (052-264-8316)
新星堂ロックイン吉祥寺店 (0422-23-2311)
新星堂ロックイン新宿店B館
(03-3354-5502)
BIG BOSSフリークスマーケット
(03-3518-4800)
山野楽器店本店 (03-5250-1063)

STUDIO STANDARD 取扱店
高良レコード店 (098-861-6394)
新星堂ロックイン博多店
(092-434-3701)
スガナミ楽器 (0849-23-6150)
トーンブルー (078-393-0125)
山野楽器サウンドクルー吉祥寺店
(0422-23-3255)
池部楽器店池袋店 (03-3989-0069)
池部楽器店渋谷店 (03-3464-2750)
池部楽器店リポレ店 (03-3862-0069)

USA 取扱店
ビーンズ東京店 (03-3413-8188)
エフシュガー (03-3374-5679)
池部楽器店ギターステーション
(03-3477-0089)
カワイ楽器盛岡ショップ
(019-623-7982)

JAMES TYLER™ 日本総発売元 コンチネンタルファーイースト株式会社

TEL03-3583-8451 e-mail:tom@cfe.co.jp FAX03-3589-0272 〒106-0032東京都港区六本木3-18-9コンチネンタルビル

キャリア30年を迎えた ジェームス・タイラーの新たな挑戦

THE INSTRUMENTS 2

構成:編集部 撮影:星野俊(工房の写真を除く)

JAMES TYLER STUDIO STANDARD SERIES

スタジオ・ギタリストやセッション・ミュージシャン、さらにはあのマイケル・ランドウまでもが絶大な信頼を寄せているLAのギター工房・ジェームス・タイラー。これまでは現地での完全ハンドメイド製品のみだった同社が、日本製作陣とのタッグにより、スタジオ・スタンダード・シリーズを発売した。ジェームス・タイラーUSAの最高峰モデルであるスタジオ・エリート・シリーズを引き継いだこのモデルの真価に、試奏、パーツ分析、さらにジェームス・タイラー自身へのインタビューなどから迫ってみたい。また現在入手可能なLA工房製のモデルもいくつか紹介しよう。

個性溢れるギターを提供し続け、またさまざまなオプションを追加することで、よりカスタマー好みのギターを作り上げるジェームス・タイラーが、新シリーズとなるスタジオ・スタンダード・シリーズを発表した。本器はジェームス・タイラーがデザインやコンセプト的な部分すべてを統括し、その意見を受け日本の製作陣が加工から組み上げまでの、ほぼすべての工程を行なうというブランド初の試みがなされたモデルだ。そのクオリティは高いレベルを誇っており、LAの工房で作られるカスタム・ギターに勝るとも劣らない。そこには、このシリーズに対するジェームス・タイラーと日本製作陣の並々ならぬ熱意と努力が感じられる。ボディ材のアルダーは57年以降のストラトに多く使用された木材で“枯れた”感とコシのあるサウンドが特徴。ネックにメイプル、指板にはローズウッドを採用し、塗装はナチュラル・マットという仕上げ。ネック形状などを含めた総合的な面でのクオリティの高さを感じさせる。ピックアップのパワー・バランスも良く、それによって各ポジションごとに特徴ある音色を持つ。またミッド・ブースターの存在がサウンド・メイキングの幅を大きく広げているのは言うまでもないだろう。ジェームス・タイラーの誇りと自信を体感できるモデル。それがスタジオ・スタンダード・シリーズだ。



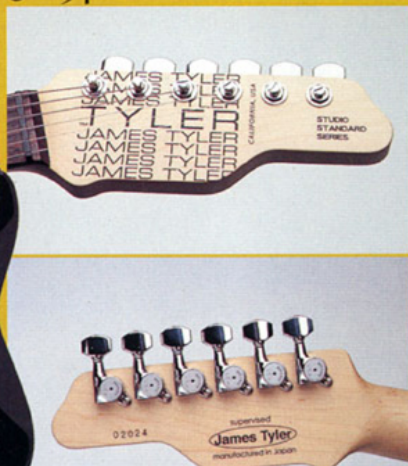
スタジオ・スタンダード・HD

●オープン プライス(市場予想価格¥298,000程度の見込み)

○SPECIFICATIONS

●ボディ:アルダー・2ピース ●ネック:メイプル ●指板:ローズウッド ●フレット:ジャンボ・フレット21.5,22F ●ピックアップ:オリジナル・ローノイズ・シングルコイル・ピックアップ(フロント、センター)、オリジナル・スラント・ハムバッカー(リア) ●コントロール:1ボリューム、1トーン、5ウェイ・ピックアップ・セレクター、ミッド・ブースター・コントロール ●ペグ:ゴトー製H.A.P.M. ●ブリッジ:ウィルキンソン製VG-300 ●カラー:グロス・ブラック(写真)、ブロス・ホワイト ●専用ギグ・ケース付属

●ヘッド



個性的なシェイプと、いく重にも記されたロゴがグッと目を惹きつけるヘッド・デザイン。またヘッド裏に“supervised James Tyler, manufactured in Japan”と記されており、このモデルがジェームス・タイラー監修のもと日本で組み上げられたことを証明している。また1弦ペグ付近にはシリアル・ナンバーが打ち込まれている。ペグにはゴトー製のH.A.P.M.を採用。これまでいくつかのモデルで使用していたということ、その性能には信頼を寄せている。チューニングの安定性はもちろん、各弦ごとのテンション調整も可能だ。

●ネック/フレット



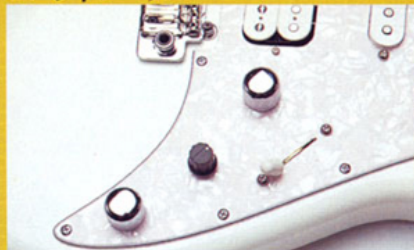
スタジオ・エリートのネック・デザインを引き継ぎながら、さらに弾きやすさを追求したネック。塗装はナチュラル・マット仕上げで、サラリとした手触りがプレイビリティを高めている。またジャンボ・タイプのフレットを採用することで、押弦時に弦と指板との距離が若干広くなり、指と指板との摩擦を軽減した。それによりチョーキングやピラットがしやすくなっている。さらにハイ・ポジションでのフィンガリングを考慮して、ネック・ジョイント部の1弦側カッタウェイが大きく削られている。

●ピックアップ



このモデルのために開発されたオリジナル・ローノイズ・シングルコイル・ピックアップをフロントとセンターに、同じく新開発のオリジナル・スラント・ハムバッカーをリアに採用している。ビンテージ・サウンドを再現しつつもノイズを最小限に抑えることに成功している。

●コントロール



1ボリューム、1トーン、5ウェイ・ピックアップ・セレクター、ミッド・ブースター・コントロール。このアッセンブリはHD仕様と呼ばれ、LA工場で製作されているスタジオ・エリート・シリーズの最上位機種のひとつ、スタジオ・エリート・HDと同じタイプとなっている。

●ブリッジ



スタジオ・エリートを始め、ジェームス・タイラーのLA工場で作られるほとんどのモデルに採用されているウィルキンソン製のブリッジ。このVG-300も、チューニングの安定性、アーミングの操作性など高いクオリティを誇る。

試奏レポート

ここでは、スタジオ・スタンダード・HDが秘める真の実力を探るべく、鈴木健治に試奏をお願いした。

試奏者：鈴木健治

PROFILE▶神奈川県出身。小学3年の様ビートルズ好きの兄に影響されギターを始める。高校に入ってからのはウィルキンソン製のギターにハマり、高校卒業後は音楽専門学校へと進学。88年に同学校を卒業する。89年からスタジオ・ミュージシャンとして活動を開始し、これまでにMISIA、MAXなどを筆頭に数多くの作品に参加。またライブ・サポート・ギタリスト、コンポーザーとしても活躍している。演習セッション・ミュージシャン。

スタジオ系の人には1本持っておいて間違いないギター。もちろんバンド系の人もね。何を弾くか迷ったらこれ、みたいな頼りになる1本だね。



総評

まず思ったのは、いろんなジャンルに対応できるギターだということ。まさに万能。ギターが出しゃばりすぎないというか、良い意味で弾く人の好みどおりにできると思う。音の特徴としては、とにかくフラットであるということかな。それはギターという楽器にとって諸刃の剣でもある、ピークなところがないということだから、どの部分のサウンドも強力にすることができるよね。このモデル名のとおり、スタジオ仕様というか出したい音を瞬時に再現してくれると思う。

弾き心地はまったく問題なし。日本人好みと言っても決して言い過ぎじゃないと思う。ジェームス・タイラーという人のこだわりがすごく感じられるよ。カスタマーの意見を受けて、それを形にしていってという作業を長年続けてきたからこそ、こういった仕事ができるんだろうな。

スタジオ系の人には1本持っておいて間違いないギター。もちろんバンド系の人もね。何を弾くか迷ったらこれ、みたいな頼りになる1本だね。

●持った時の印象

バランスがいい！ 手を離してもびったり水平だよ(笑)！ 生音も鳴ってるね。ソリッド・ボディの場合って、まさに弦だけが鳴ってるような音を出すものもあるけど、これはしっかりボディ、それからネックで鳴ってる感がある。

●弾き心地

ネックは若干太めだけど弾きにくいってことはない。むしろ弾きやすいかも。形状もオーソドックス。三角だったり、平べったくもないし。塗装は軽く塗られているんだね。サラサラしていて、変に引っかかっていたりするところもない。フレットもジャンボ・フレットという名前ほどの違和感はないね。もちろん弦のゲージとかの兼ね合いはあると思うけど、スライドとかグリブ、それにフィンガリングも全然スムーズにできる。

●クリーン・サウンド

素直な音だね。クセのない音。すごくいいフラットな音と言えるんじゃないかな。それはプレイヤー側でどのようにも変化させることができるということだから、自分好みの音を作るには最適だよな。高い方と低い方のバランスがちょうどいい。ボリュームを絞った感じもいい。ボリュームを絞るとハイがなくなるのもあるんだけど、これはしっかり出て、純粋にボリュームを下げた音を出してくれる。ボリュームをコントロールするだけで、かなりのサウンド・バリエーションを実現できるんじゃないかな。

●ドライブ・サウンド

歪ませてもサウンドの均一感は失われてないね。プレイヤーが完全にコントロールできる。あとやっぱりボリュームのコントロール性が抜群だね。ボリュームを絞ったクランチ〜クリーンなサウンドからドライブに移行する際のカーブが素晴らしい。今回はいつも僕が使っているラック・システムを使っただけ、単純にアンプ直とかブースター1個とか、そういったシンプルなセッティングでも驚くくらいサウンド・バリエーションが得られると思うよ。ミッド・ブースターは、今弾いた感じで僕だったらソロの時にグッと音を厚くしたい時とか、あとエンディングで盛り上がる時とかに使いたいね。

試奏データ



今回の試奏で使用したエフェクターなどは、すべて鈴木健治が普段のレコーディングやライブなどで使用しているもので行った。まずラック(写真上)から解説しよう。上からVHTのパワー・アンプ2150、ファーマンのパワー・コンディショナーRR-15NL、イーヴンタイトのハーモナイザー/ピッチ・チェンジャーGTR4000、t.c.electronic製のリバーブFIREWORX3000、レキシコンのリバーブPCM80、t.c.electronicの空間系マルチ・エフェクターG-MAJOR、カスタム・オーディオ・ジャパンのプリアンプ3+、イグネーターのプリアンプie4、dbxのコンプレッサー/リミッター160A、デジタル・ミュージック・コープのデュアル・ステレオ・ライン・ミキサーSYSTEM MIX PLUS、デジタル・ミュージック・コープのスイッチャーGCXスイッチング・システム。ラック両端にあるスピーカーは、クルーズのSP-112を2台使用。足下(写真下)は左上から反時計回りにポスのチューナーTU-12、ロケットロンのMIDIフット・コントローラーALL ACCESS、コルグのボリューム・ペダルEVP-10、ヴォックスのワウ・ペダル、エマのコンプレッサーTransMORGrifier(今回は未使用)。

JAMES TYLER LA工房

ここではロサンゼルスにあるジェームス・タイラー工房で、現在製作されているモデルをいくつか紹介しよう。

スタジオ・エリート

ジェームス・タイラーの中核をなすモデル、スタジオ・エリート・シリーズ。中でもこのモデルは上位機種にあたる1本だ。ピックガード下に内蔵されたハム・キャンセル用のコイル（フロントとセンターの間）が、右下の写真からわかると思う。これらがミニ・スイッチの切り替えて各ピックアップとシリーズ&パラレル接続が可能となり、ハム・キャンセルの方法を変化させ多彩なサウンドを生み出す。ミッド・ブーストも内蔵。（写真はミッド・ブースト・プリセット・ボタンの搭載や、キルト・メイブル・トップなどを施した仕様。カラーはカリビアンブラッシュ。）

◎SPECIFICATIONS

●ボディ:マムヨ or アルダー ●ネック:メイブル ●指板:メイブル or ローズウッド ●フレット:22 ●ピックアップ:オリジナル・ハムキャンセルド・スタック・シングルコイル(フロント,センター),オリジナル・ハムバック(リア) ●コントロール:1ボリューム,5ウェイ・ピックアップ・セレクター・シリーズ/パラレル・スイッチ×3,リード・リズム・スイッチ,ミッド・ブースト ●ペグ:スーパーセル・ロックンギン・チューナー ●ブリッジ:ウィルキンソンVS-100N or VG-300 ●プライス:基本仕様 ¥630,000

スタジオ・エリート・HD

スタジオ・エリート・シリーズのひとつであるスタジオ・エリート・HDは、今回発表されたスタジオ・スタンダード・HDのベースとなったオリジナルUSAのモデルだ。ミッド・ブーストによる音圧のあるミッド・レンジが、ストラトの持つ“鼻れ馬”的なニュアンスを再現してくれる。写真のモデルはボディにマムヨ材、ミッド・ブースト・プリセット・ボタンや、ダンカン製ピックアップを搭載した特別仕様。カラーはサイケデリック・ボーマット。

◎SPECIFICATIONS

●ボディ:アルダー ●ネック:メイブル ●指板:メイブル or ローズウッド ●フレット:22 ●ピックアップ:カスタム・ジョン・サー・シングルコイル or ディマジオ・パーチャル・ピンテージ(フロント,センター),トレム・バック(リア) ●コントロール:HD仕様(1ボリューム,1トーン,5ウェイ・ピックアップ・セレクター,ミッド・ブースト) ●ペグ:スーパーセル・ロックンギン・チューナー ●ブリッジ:ウィルキンソンVS-100N or VG-300 ●プライス:基本仕様 ¥600,000

クラシック・マイケル・ランドウ・モデル

ジェームス・タイラーと言われて連想するギタリストと言えば、セッションマンとして有名なマイケル・ランドウ。彼のシグネイチャー・モデルのひとつがこの1本だ。太めのネック・グリップや、ストラトと同タイプのボディ表のシールド・ジャックなど、ランドウの好みを集約しているモデルと言える。

◎SPECIFICATIONS

●ボディ:アルダー ●ネック:メイブル ●指板:ローズウッド ●フレット:22 ●ピックアップ:ジョン・サー・シングルコイル(フロント,センター),ハムバック(リア) ●コントロール:1ボリューム,2トーン,5ウェイ・ピックアップ・セレクター ●ペグ:クルーゾン・スタイル・チューナー ●ブリッジ:ウィルキンソンVS-100N or VG-300 ●ヘッドピックガード ●プライス:¥583,000

クラシック

名器と呼ばれるギターが、ジェームス・タイラーというフィルターをとおして世に送り出されたと言えらるこのクラシック・シリーズ。一見してわかるように、ストラトキャスターを模範としながらも、ジョン・サー製かディマジオ製ピックアップのどちらかをセレクトできたりと、プレイヤーの好みにより表情を変化させられるギターだ。写真のカラーはフェスレットで、マッチング・ヘッド・カラーなどを施した仕様。

◎SPECIFICATIONS

●ボディ:アルダー ●ネック:メイブル ●指板:メイブル or ローズウッド ●フレット:22 ●ピックアップ:カスタム・ジョン・サー・シングルコイル or カスタム・ディマジオ・パーチャル・ピンテージ×3 ●コントロール:1ボリューム,2トーン,5ウェイ・ピックアップ・セレクター ●ペグ:クルーゾン・スタイル・チューナー ●ブリッジ:ウィルキンソンVSピンテージ ●プライス:基本仕様 ¥560,000

タイラーバスターEP

テレキャスタータイプのギターだが、3ピックアップやアルダーとアッシュの3プライ・ボディなどタイラー氏解釈によるサウンドへのこだわりが表われた1本。鈴木健治も試奏し、“従来のテレキャスとは受ける印象が違う。サウンド・メイキングの広さには驚く。こんなテレキャス・タイプなら欲しい”と絶賛していた。写真はスーパーセル・ロックンギン・チューナー搭載の仕様。

◎SPECIFICATIONS

●ボディ:アルダー・アッシュの3プライ ●ネック:メイブル ●指板:メイブル ●フレット:22 ●ピックアップ:カスタム・ジョン・サー・シングルコイル×3 or カスタム・ディマジオ・パーチャル・ピンテージ(フロント,センター),ハムバック×2 ●ピックアップ(リア) ●コントロール:1ボリューム,1トーン,5ウェイ・ピックアップ・セレクター ●ペグ:クルーゾン・スタイル・チューナー ●ブリッジ:クルーム8ピース・“T”ブリッジ ●プライス:基本仕様 ¥540,000

最後にジェームス・タイラーへのインタビューをお届けしよう。30年の長きに渡りLA工房以外でのギター製作をよしとこなかった彼が、なぜスタジオ・スタンダード・シリーズの発売を決意したのか。そのわけはこのインタビュー中で語られている。なおこのインタビューは、メールにて行った。

ジェームス・タイラー

1951年、ロサンゼルス生まれ。幼少の頃より手先が器用で身のまわりのものを分解してはもとどおりにするというをやっていたという。いつしかギターを弾くようになると、それにとめない自然と“ものを直す”という作業もするようになる。ギター・ビルダーになるつもりは特になかったらしく、大学では写真を専攻した。しかし友人などにギターの修理を頼まれたりしているうちに、ギター・ビルダーとして本気で取り組むようになったという。そして72年にショップを開業。LA周辺のスタジオ・ミュージシャンのためのリペアと製作を行なう。今年ビルダー生活30周年を迎えた。

ビルダーとして、より多くのカスタマーのニーズにお応えしたい。 そう思い、スタジオ・スタンダード・シリーズを開発しました。

●まず新製品スタジオ・スタンダード・シリーズを発売するにいたった経緯を教えてください。

○ここ数年、私のギターに対する需要が急増し、多くのプレイヤーの方にご紹介することができませんでした。ビルダーとして、より多くのカスタマーのニーズにお応えしたい。そう思い、時間をかけいろいろな選択肢を考慮した結果、ついにジェームス・タイラー・ギターの新しい製品ラインナップを開発することができました。それがスタジオ・スタンダード・シリーズなのです。

●どういったコンセプトを設定しましたか？

○よりコスト・パフォーマンスに優れていること。しかもプロのスタジオ・ワークの現場でも使用できる高いクオリティを持つギター、ということ念頭にしています。

●これまではLAの工房での完全ハンドメイドでしたが、このギターは日本で組み立てられるそうですね。このようなスタイルにしようとしたわけは？

○過去数年にわたり、各国のいろいろな会社の方々が、今回のようなスタイルでギターを作りたいと、私を訪ねてきました。その中で、私のギターをよく理解し、また非常に高い技術力を持ち、人間的にも信頼できるという理由で日本から来た製作チームを選択しました。彼らとなら私のギター・スピリットを保ち続けることができると確信し、このシリーズの発売を決意しました。

●品質保持のために一番注意していることは何でしょうか？

○LAで製作しているギターの基本デザインを踏襲していること。またディテールのひとつひとつに細心の注意を払っていることです。

●日本の製作陣にはどんなことを要求しましたか？

○製作本数は少量に抑え、カスタマーの声をよく聞いて、品質の高い製品を作ることをお願いしました。

●最終的な品質チェックができないわけですが、それについての不安はありませんか？

○いや。製作チームとは綿密な打ち合わせをくり

返してまずし、プロトタイプやサンプルを何本か送ってもらい、チェックしております。したがって製品には絶大な自信を持っています。

●ネックやボディ形状など、日本人に合うようなデザインは施しているのですか？

○LAで現在製作している私のギターの基本デザインをベースにしているので、特にそういったことは施していません。

●ボディにマムヨ材をチョイスしなかったのは、日本の気候など環境面からの配慮ですか？

○実は最近、アルダー材は私が注文を受けるギターのボディ材として、最も人気のあるものとなりました。アルダーは非常に融通がきく材質であるとともに、ビンテージ・サウンドを提供することができます。また今回のモデルのベースとなったスタジオ・エリート・HDにも採用しているという理由からスタジオ・スタンダード・シリーズにはアルダーを選びました。

●新開発のピックアップを搭載していますが、これはどういったサウンドを提供してくれますか？

○ビンテージ・サウンドから、ディストーションによるビッグなリード・サウンドまで、幅広くこなす、まさにスタジオ仕様と言える音を出してくれるでしょう。

●あなたの製品の多くに言えることですが、ピックアップに角度が付けられていますね。この理由を教えてください。

○私のオリジナリティを追求した結果です。

●ミッド・ブースターが内蔵されていますが、これはスタジオ・エリートなどと同じ仕様のものでしょうか？

○いや、このシリーズのために新たに開発したものを搭載しました。

●LA工房で製作される製品のベグはスーパーゼル製がほとんどですが、ゴトー製にしたのはどうしてでしょうか？

○ゴトー製のベグも、LAで製作している私のさまざまなモデルに使用してきました。このH.A.P.M.は、現在世界のマーケットに存在する最高のベグのひとつと考えています。



LA工房でギターをチェックするジェームス・タイラー。

●今年で工房開設30周年になるわけですが、ギター作りにおける考え方などに変化はありますか？

○いいえ、ありません。これまでと同じく、カスタマーの声には常に耳を傾けるということを大事にしています。

●この他に何か新製品の予定があれば教えてください。

○現在はLAで製作するギターと、このスタジオ・スタンダード・シリーズに集中しています。

●前回のインタビュー（99年4月号）の際“アコースティック・ギターも作りたい”と言っていたのですが、まだ発売はされていないのですか？

○まだ製品化されておりません。そのプロジェクトは、先になると思います。

●最近のギター・シーンをあなたはどうかとらえていますか？

○個性溢れる時代になったと思います。しかしギター作りの基本コンセプトは変わっておりません。新しいアイデアや一時的流行がはびこる中、本物のミュージシャンは、常に実践的、そして実証されたデザインを好みます。

●最後にギター作りでこれから目指すところを教えてください。

○カスタマーの声に熱心に耳を傾け、カスタマーが望むものを提供し続けていきたいと思っています。



スタッフによるネック・クリップ調整の様子。



完成したギターなどが並んでいる。一番手前はタイラーバスターEPにサイケデリック・ボーム・フィニッシュを施したものだ。